

11月度生涯研修抄録

インプラント治療の難症例鑑別のポイントとその対応について—すべての患者さんに—

堀内 克啓 (大阪大学歯学部臨床教授・元奈良県立医科大学口腔外科学講座助教授)

かつてのインプラント治療は骨のある部位にインプラントを埋入し(外科主導型インプラント治療)、審美性はなくても

咬めればよいとされてきた。しかし、日本でも最近では、インプラント治療が欠損補綴の第一選択と考えられるようになり、天然歯と遜色のない審美性を求めたり、またかなりの骨量不足しているインプラント治療を希望したりということから、難症例が多くなっている。

したがって、これらの難症例を鑑別し、適正に対処するためには、まず補綴主導型インプラント治療を念頭に置いた確かな診査・診断が必要であり、理想的なインプラント埋入ポジションを決めるための診断用ワークスアップの後にCTスキャンを基にコンピュータ・シミュレーションにて2

次元的および3次的画像解析にて骨造成量を決定する。歯槽堤造成術には一般的にはGBRが用いられているが、欠損が

広範囲な症例や垂直的あるいは水平的骨欠損が7mmを越える症例では、GBRのみでは対応が難しいと考えられる。そこで、演者は自家骨移植と歯槽骨延長術、生体材料を用いたSinus liftを単独あるいはそれらの併用によって歯槽堤造成を行い、良好な結果を得ている。本講演では、欠損様式別による歯槽堤造成術のガイドラインを提示し、どのような症例にはどの術式を単独あるいは併用するのが最適であるかを、また併用する場合はどの順番で行うのがよいかを実験例を供覧し、解説したい。

また、骨造成の基本手法である骨移植とSinus liftを失敗しないためのポイントに関して、Bone Graftingに基づいた基本知識とヒデオ等にて術式を詳細に説明したい。

南河内地区 小児歯科の基本を解説 会場いっぱい参加者

協会の南河内地区は9月27日、保険医会館で、「小児歯科の基本—その特徴と診療のポイント—」を開いた。講師は、日本小児歯科学会専門医の副島之彦氏(門真市開業)。

1時間の講演と30分の質疑応答という限られた時間だったが、会場いっぱいの50人以上の参加者が詰め掛け、好評だった。講演内容は、小児の取

り扱いの基本的考え方から、診療までの準備、母親への説明の仕方、そして具体的にレジン充填やCRジャケット冠、乳歯冠の装着方法、笑気を取り扱など。副島氏は、映像

三島地区 介護保険の実態学 医科・歯科の連携強化を

協会の三島地区は9月27日、高槻市内にて、うた下田部病院長の白川義純氏を講師にむかえ、講習会「高齢化社会における医療の展望—医科から見た」を開いた。

白川氏は、「介護保険の導入で本来ひとつであるべき医療体制を縦軸に分析し自己責任を強要

を交えながら説明した。質疑応答では、参加者から質問が相次いで、副島氏はその一つひとつに丁寧に具体的に答えた。講習会終了後も、個別に質問された方々に、分かりやすく説明していた。明日からの小児歯科治療にすぐに役立つ会だった。(松原市・藤井佐都樹)

歯科・医科中央地域懇談会 食育テーマに講習会 風土に合った食生活を

歯科・医科中央地域懇談会(西区・中央区・天王寺区)は9月20日、講習会「医師・歯科医師のための食生活・食育について」を開いた。2月の基礎編に続く応用編で、講師は豊田裕章氏(浪速区開業)。

同氏の実践例として、歯磨きの回数、米飯・味噌汁の摂取回数などを聞く問診表や、虫歯・歯周病を防ぐ食生活をまとめたり紹介された。豊田氏は「食べるべきものが食べたいものになるように食育を進めてほしい」と締めくくった。

ないもの。十分に考慮して欲しい」と提起した。白川氏は最後に、訪問診療への参加を呼び掛け、「往診では、口腔清掃を最初に考えてほしい」と訴え、口腔内の清潔さが内科疾患の緩解のサポートになるのではないかと述べた。医科歯科の連携はここから始めるべきかと思われる講習会であった。(高槻市・大西和典)

同時に、一斉に頭上にポスターが掲げられた。そして清原選手が見えなくなってしまうたのである。その結果、スタンドは「見えへんやんけ」「ポスターおろせ」と天騒ぎ。結局、カウントが進むにつれ皆がポスターを下ろしだし、最後2球くらい(しかも?)はしっかりと見ることができた。本来の清原選手の打席を兼ねる目的は半ばしか達せられなかったが、私自身は人文字参加、久しぶりの生の野球観戦と十分満足させていた。だが、そうでない人もたくさんいた事だろう。今回のイベントが、

清原観戦記

鈴木 聡一 (西淀川区)

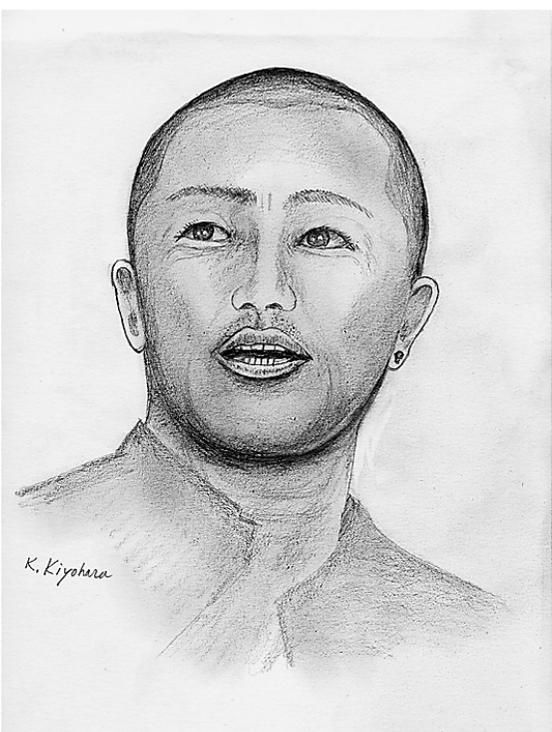


リレーエッセイ 238

最近プロ野球観戦に行っていた。ずいぶん久しぶりのことだった。日頃からTVではよく見ているが、球場に足を運ぶのは何年ぶりのことかと思ひ出せないほどである(心

援チームがたいがい負けの。しかも、今回のように、当日に急に思い立って切符を持たず一人で行ったのは間違いなく初めての経験。なぜそんなことを?

それは、その試合が清原選手復帰予定試合だったからである。球場に着くやいなや、少年時代に戻ったかのような高揚感に包まれ、身震いするような感覚で待っている私があった。まもなく、私の席が清原選手登場時に「NEVER SAY NEVER」の人文字をボスターでつくるイベントに参加することになった。イベントに参加! その



絵 藤田 進 (河内長野市)

ことがさらに高揚感を増幅させた。清原選手がいつ登場するか、胸を躍らせ観戦している。いついその時

が、ベンチ前で彼の登場を清原自身も待っているかのような緊張感と期待感、プロ中のプロが醸し出す迫力に圧倒されながら、

昨日騒がれている国民無視の政治、消費者無視の身勝手な経営、同レベルのファン心理を無視した主催者中心のものだったとは言わない(少なくとも私は楽しめたので)。100%相手を満足させる難しさ、人を喜ばせる難しさを痛感した。ちなみに例によって応援していた清原選手所属チームは確か負けたような気がします。

鈴木聡一先生ありがとうございました。次回11月15日付は、鈴木先生から岡本吉宏先生(吹田市)にバトンタッチされます。ご期待ください。

求人 ハーモニックにおまかせ下さい 歯科医師 衛生士 助手 技工士 優秀な人材をご紹介します 常勤、アルバイト、パートに関わらず人材採用のお手伝いをさせていただきます。弊社にて事前に面接済の求職者の中からご希望の条件と合う方を探し、ご紹介致します。 ホームページ http://harmonic-net.co.jp